

平成25年度フェロー認定（13名）



氏名	浅岡 顕
認定時の所属	地震予知総合研究振興会
抱負	
氏名	荒川 薫
認定時の所属	明治大学
抱負	数学や自然科学を基礎とし、それを私たちの生活に役に立てることを目的とした工学は、社会を構成する多様な人が参画して推進される必要があります。また、単に目の前の技術を発展させるだけではなく、自然界と共存し持続可能な社会を作るために多角的な視点から問題を捉える必要があります。私はフェローになるにあたり、女子学生などにも工学分野への進学を勧め、異分野との交流も行い、日本の工学における多様性及び多角性の向上に貢献できればと思います。（令和6年8月更新）
氏名	安西 祐一郎
認定時の所属	日本学術振興会
抱負	
氏名	内山 隆
認定時の所属	株式会社富士通研究所
抱負	
氏名	窪塚 孝夫
認定時の所属	自動車技術会
抱負	

氏名	後藤 彰
認定時の所属	株式会社荏原製作所
抱負	<p>現在、可視化情報学会の会長として、可視化情報学の発展と普及に努めている。本学会が取り組んできた「可視化」の技術は、自然科学分野における現象理解を深化するところからスタートし、その後、「可視化情報」という新しい学術分野を、人文科学分野を含め発展させてきた。我々をとりまく諸課題は、ますます複雑化し、いくつもの自然科学や人文科学が絡み合う学際的な性格を強く持っており、それに関わる情報の種類や量も爆発的に増大している。日本工学会が関わる社会問題も学際分野における取組みが重要となっていることから、「可視化情報」を重要な技術・学術と位置づけ、それを発展・応用することで貢献して行きたい。特に「可視化」は、物事の成り立ちや立位置を明確化するだけでなく、人々の行動や判断のあり方を変える強い力を持っている。電力消費の可視化、生産の見える化、データマイニング、設計空間の可視化など、情報を「可視化」することで人々の行動や判断に影響を及ぼし、経済や産業の発展、そして市民生活と自然との共生に貢献して行けると考える。</p> <p>また、産業界における研究開発に長年従事し、さらに色々な学協会活動を行ってきた経験を生かし、産業界とアカデミアの橋渡しをする形で、社会が直面する課題に取り組んで行きたい。</p>
氏名	小溝 裕一
認定時の所属	大阪大学
抱負	
氏名	佐藤 順一
認定時の所属	株式会社IHI
抱負	<p>工学(Engineering)は、科学(Science)と技術(Technology)をつなぎ我々人類のよりよい生活、活動、安全に役立つものを創るという使命を持っている。我々工学者は、そのような使命を持って活動してきたと思っていたが、東日本大震災およびそれにより引き起こされた原子力発電所の事故は、社会が工学者、科学者、技術者を信頼できないものと見るようにさせてしまった。このようになってしまったのは、東日本大震災という巨大災害に原因があるのではなく、工学が細分化され、それを担う工学者がその狭い専門の殻に閉じこもりがちになり、また社会の中の工学という観点を失いつつあったということに原因があると思われる。日本工学会発足時は、工学は細分化されておらず、工学会のメンバーは広い視野を持っていたと思われる。候補者は、細分化された工学の融合、科学と工学の融合、工学と技術の融合、そして工学と社会との融合という観点から活動をしていきたいと思う。</p>
氏名	佐藤 知正
認定時の所属	東京大学
抱負	

氏名	白鳥 則郎
認定時の所属	東北大学
抱負	<p>約100の工学系学協会から成る日本工学会は、これまで科学技術の集団として、科学技術の進歩・発展に大きく貢献してきました。</p> <p>一方、日本は今、経済、財政、社会保障及び教育の改革、さらに大震災からの復興に基づく日本の再生という、これまでにない大きな課題に直面しており、その解決へ向けて危機感を共有し、全国民をあげての取り組みが必須となっています。</p> <p>特に、大震災からの復興なくして新しい国づくりへ向けた日本再生はあり得ません。</p> <p>このような再生には、資源の乏しい日本にとって、科学技術に基づくイノベーション創出は極めて重要であり、これを支え、強力に推進する有能で多様・多彩な人材の育成が最も大切であると考 えます。</p> <p>有能で多様・多彩な人材育成及び日本がかかえる経済、財政、教育改革などの複合的な課題の解決に繋がる科学技術の発展が、今、これまで以上に大きく期待されています。</p> <p>科学技術分野において、先述の人材育成と日本がかかえる複合的な課題の解決に向けて必須で効果的な、多くの専門分野の横断的な法人組織を有するのは、日本工学会だけであります。</p> <p>私は特に、このような日本工学会の大きな特長を生かし、さらに私自身の3.11大震災の被災経験をふまえて、震災からの復興、さらに日本再生へ向けた活動を精力的に展開したいと考えております。</p> <p>日本工学会が日本の新しい国づくりの再生へ向けて、活動のより一層の活性化と強化を推進することを期待します。</p>
氏名	橋谷 元由
認定時の所属	化学工学会
抱負	
氏名	松本 洋一郎
認定時の所属	東京大学
抱負	<p>社会の発展に伴い、人類は様々な困難な問題に直面している。日本の人口は減少に転じ、世界でも類を見ないスピードで高齢化が進行するとともに、国際競争が激化し、欧米との競争のみならず、アジアにあっても近隣諸国の猛追を受けている。わが国が持続的に発展し、国際社会における熾烈な競争で先頭集団に留まれるかどうかは、科学技術・学術が、さらには、それらへの継続的な投資が、決すると言っても過言ではない。そのような状況の中で、日本再生に向けたシナリオはいくつかあるが、一つは「モノづくり」を基盤にして世界を牽引するイノベーションを継続的に起こして行くことだと思われる。日本の強みを発揮できるコア部分については、わが国に研究開発の拠点に加えて、製造拠点を復活させることが日本経済を再生させることになる。研究開発から生まれるインベンションをイノベーションに発展させて行くことが重要である。その中心は広い意味の「工学」である。「工学」は、人が要求する機能から出発して、「モノ」を設計・製造し、「こと」として成就させる学術体系で、持続可能な社会の構築を支え、様々な課題の解決に資する基盤で、科学技術に深く根ざし、広い範囲を網羅し、人類の将来に大きな責任を負っている。また、人々の生活と社会の質を高め、世界的な規模での環境的課題に対応していくには、不断にイノベーションを創出していくことが不可欠である。イノベーションは単一の科学・技術によって成し遂げられるものではなく、様々な科学的技術的知識を政産官学の多様な立場から統合していくことが必要である。同時に、次のイノベーションの核となる学術を涵養しておくことが何にもまして重要である。このような状況の中で、様々な「工学」を繋ぐ要となるべき日本工学会の役割は益々重要となる。分野を超えてわが国が直面する諸課題の解決に向けて、長期的な視点に立って取り組んでいきたい。</p>
氏名	依田 照彦
認定時の所属	早稲田大学
抱負	<p>1879年に設立された日本工学会のわが国における位置づけとこれからのわが国の工学のあり方を考えるとき、現在加盟している99学協会では全工学分野を代表するには少ないように感じている。したがって、今後はいかに加盟学協会を増やすかが課題となるように思われる。合わせて、社会のための工学の立場を明らかにし、日本工学会が目指している「エンジニアの地位向上」は最重要課題と考えている。</p>